

京丹後市都市計画審議会 会議録

- 1 会議名 第18回京丹後市都市計画審議会
- 2 開催日時 令和7年12月23日(火) 午前9時00分から午前11時30分まで
- 3 開催場所 峰山総合福祉センター コミュニティホール
- 4 出席者
 - (1) 委員
尾上亮介、岡井有佳、水田朋子、山崎高雄、梅田和男、嶋田健一郎、藤井美枝子、和田晋、櫻井祐策、南郷篤、小林文彦、江浪敏夫、松井康明、安井美佐子、巽真涉、志水美咲、野村恵太、弓削穂栞
欠席2人(伊豆田千加、橋本まり子)
 - (2) 事務局
建設部長 中川正明、政策調整監 唐松雅司、都市計画・建築住宅課長 井上浩一
- 5 議題及び会議の公開又は非公開の別
 - (1) 議題
京丹後市都市計画マスタープラン(素案)について
 - (2) 公開又は非公開の別
公開
- 6 傍聴者
3人
- 7 発言の内容(要旨)

会長あいさつ

皆さんお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。

今日は都市計画マスタープランの素案について、それぞれの専門、立場からご意見をいただき内容を詰めていく会議の内容となっています。ぜひ様々な角度からご意見をいただいてマスタープランを詰めていきたいと思っております。

資料がぎりぎりに配布をされている状態ですので、説明を聞きながらご意見いただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

資格審査

20人中18人の出席により成立

(京丹後市都市計画審議会条例第6条第2項の規定)

会議録の内容

梅田委員を指定

(京丹後市審議会等の会議の公開に関する条例施行規則第5条第2項の規定)

議事

京丹後市都市計画マスタープラン（素案）について

事務局説明（資料 1～3）

（事務局）

都市計画マスタープランの素案について説明します。

前回第 17 回審議会では、現行の都市計画マスタープランの概要及び改定の進め方、市民アンケートの結果などについて説明しました。

本日は、高校生のアンケート、地区意見の紹介、説明会、中学生や市民ワークショップを実施しましたので、概要について説明します。

あわせて現行のマスタープランとの素案について、大枠での見直し点を、説明したのちに、素案の内容を審議いただきたいと思えます。

見直し内容につきましては、高速道路の全線開通を見据え、現行のマスタープランでは都市計画区域を計画の対象としておりましたが、改定では、都市計画区域を有していない丹後、弥栄、久美浜も含めた市全域として、6 地域の地域別構想を策定をしていきたいと思っております。

さらに、マスタープランに続く立地適正化計画に関係する区域や、誘導する都市施設などの、基本的な考え方について内容を盛り込んでおります。

前回の審議会では市民アンケートの結果について説明をいたしました。

前回の審議会以降に、高校生のアンケート、225 地区の自治区等への意見照会、各町での説明会やホームページの意見募集、中学生や市民ワークショップを行いました。

1 枚めくってください。高校生アンケートの概要でございます。

令和 7 年 7 月に市内の峰山高等学校と丹後緑風高校のご協力をいただきまして、全校生徒の方々にアンケート調査をお願いしました。総数で 792 のお答えをいただいて、回答率は 93% です。

アンケートの分析としては、日常の買い物や飲食は大型ショッピングセンターのある国道交差点周辺が利用されています。生活環境の評価では、重要度が高く満足度が低いところが課題になりますが、道路、交通分野と市街地分野と、市民アンケート同様の傾向です。自由意見では、公共交通の改善が 94 件と最も多く、次いでまちの発展、商業施設の充実といった意見を寄せられています。

1 枚めくってください。地区意見照会です。拠点や地域全体の方向性や、市民局周辺に必要と思われるもの、周辺のまちづくりなどについて、ご意見をいただきました。

4 ページの表にありますとおり、共通の課題としては、道路整備等の交通ネットワーク整備、峰山や大宮については、交通渋滞の解消と市外との連携。網野については既設施設の利用や観光、子育て、高齢者の支援。丹後については、地域の実情に即した施設、スーパー、交通基盤、弥栄、久美浜については農業の維持・振興や医療・福祉、空き家対策などでございます。

5 ページは、地区説明会とホームページでの意見です。主な意見としては、跡地利用、公共

交通、各地域の特色、財政面というところがありました。

土地利用については、市内で働ける場の誘致などです。

公共交通については、駅周辺の立地や拠点間を結ぶ道路をスムーズに移動ができることなどです。

各地域の特色では、観光が強みで、地域資源である農業観光との連携を生かして欲しいこと、財政面で、各拠点に施設を設けると将来の整備増大に繋がるのではないかなどが掲げられました。

6 ページをご覧ください。中学生ワークショップでございます。これにつきましては、子供まん中社会の実現に向けてということで、現在、子供計画の策定準備を進められており、その一環として、子供の意見を計画に反映させるために市内の小学校・中学校・高校でワークショップを行っているところです。今回、中学生について、都市計画マスタープランの関係から、併せて、ワークショップを行いました。

7 ページが主な意見です。地域の魅力として、自然の豊かさをあげられ、課題として、店舗の少なさ、交通の不便さを、公園や遊び場の不足などの意見です。

8 ページが市民ワークショップです。12月7日に開催しました、峰山庁舎2号館の市民コラボラウンジで、20人の参加をいただきました。

最後のページが主な意見で、各地域のテーマとして、例えば峰山町では、居住環境の強化とか行政スポーツ施設等の都市機能の活用、大宮町では、働く場の創出やアクセスの良さ。網野町では、行事文化資源の継続活用や、施設配置の平準化、休止している浅茂川温泉の再開などの既存施設の再評価。丹後町では、自然、資源、海やジオパーク、温泉といった強みを生かした地域の価値の向上。弥栄町では、農業者等への魅力をいかした地域活性化、久美浜町では、海や久美浜湾、お祭り文化を活かす、既存施設の活用という意見が出されました。

資料2-1をご覧ください。

資料2-1は、現行の都市計画マスタープランと、検討している素案との大きな点での対比になります。

対象区域は、現行のマスタープランが都市計画区域内としいたものを、市全域を対象としています。これは高速道路を見据えて、土地利用、都市基盤、都市機能、環境保全等の方針を、市全体を見据えたものとして検討し示すものです。

計画期間は、9年間で10年間に、現況と課題として、デジタル技術や持続可能な開発目標などが現行マスタープランから変わったところがあります。

上位関連計画は、現行のマスタープランでは、総合計画と、まちひとしごと総合戦略等が別立てでありましたが、第3次総合計画で、まちひとしごと総合戦略を含んだものとしています。また、改定では、立地適正化計画を見据えたものとしていることが大きなところです。

1 ページめくってください。現行では、まちづくりの主要な課題としていみせんでしたが、改定で、人口減少や公共交通、連携軸、産業地域経済の発展、災害に対する安全なまちづくり等として掲げています。

将来像は、第三次総合計画の基本構想をもとに、大動脈と繋がる大交流のまち京丹後として、多極ネットワークによる多彩で強靱な一体型のまちづくりを掲げています。

将来人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計値から 40,000 人と、人口ビジョンの 43,000 人程度を目指すことを示しています。

現行では、拠点・軸・ゾーンとして、第二次総合計画の方針で掲げたものでまとめていました。第三次総合計画では、拠点の形成と軸の形成として掲げており、現行のゾーンにある要素を、土地利用、都市基盤整備、都市機能施設、自然景観の地域資源の活用、防災として細分化をしました。

拠点の形成では、都市拠点と 6 つの地域拠点を掲げています。この後、各項目の内容を説明します。

大きくは、都市計画区域内を対象としていたものを、市全域を対象として方針を立てること、新たに立地適正化計画の策定を見据えたものとして基本となる考えを掲げるものです。なお、将来像の観点などから、産業や観光についても位置づけます。

素案の内容です。

資料 2-2 と資料 3 を用いて説明します。

資料 2-2 は、都市計画マスタープランの素案の概略を示したもので、要素の考え方等を整理しています。

まず都市計画マスタープラン素案の全体構成についてです。資料 3 の目次をご覧ください。

序章は、都市計画マスタープランとして制度や位置づけをまとめています。第 1 章は、京丹後市の現況とまちづくりの課題。第 2 章は、全体構想として、都市の将来像、まちづくりの各方針。第 3 章は、地域別構想として、6 つのまちに区分した地域別の構想。第 4 章は、計画実現に向けて、都市計画法制度などでのまちづくりや協働による推進として整理しています。

資料の 2-2 と資料の 3 をあわせてご覧ください。都市計画マスタープランの位置付けとして、第三次総合計画と、京都府の京丹後都市計画の都市計画区域の整備・開発及び保全の方針であります都市計画区域マスタープランに沿って策定します。

主な関連計画として、市街地、住宅、交通、防災、施設管理、福祉などの個別の計画と整合を図るものです。

都市計画関係の計画としては、都市計画マスタープランと立地適正化計画の関係を示しています。

次に、社会の潮流が、資料 3 の 3 ページから 4 ページになります。

6 つにまとめています。人口減少の進行、デジタル技術の発展、ライフスタイルの価値観の多様化、安全安心に対する意識の高まり、持続、可能な開発目標、広域連携公民連携の効率な行政運営です。

これを受け、16 ページ、17 ページのまちづくりの主要な課題となります。まず、人口減少を見据えた持続可能なまちづくりについては、人口減少が続くと、これまで確保されてきました生活サービスの水準が低下するだけでなく、機能の維持が難しくなると懸念されます。

2 番目、広く分散する居住豊かな暮らしを育むまちづくりについて、京丹後市は 6 つの町が合併して、500 平方キロ以上の広い地域を持っています。その中で都市計画区域が、全体の 12.5%、60.3 平方キロ弱の面積で、市全域としては 225 の集落が点在しています。このよう

な状況を踏まえた、都市計画の考え方を整理することです。

3 番目、広域連携軸の整備と移動環境が充実したまちづくりについて、京丹後まで、高速が延伸しました。今後、全線開通を見据えたまちづくりが課題です。地域経済の発展に向けたまちづくりとして、農業漁業、商業等で発展してきました。地域力の低下がありますので、大都市圏との交流促進を図る必要があること。

災害に対する安全なまちづくりとして、地域特性に応じた適切な防災、減災対策が必要であります。

18 ページをご覧ください。基本理念は、京丹後市まちづくり基本条例に基づくものとして、自治と協働によって進めるまちづくりでは、将来都市像は、第三次総合計画の都市機能構想に基づき、大動脈とつながる大交流のまち京丹後、多極ネットワークによる「多彩で強靱な一体型のまちづくり」です。

5 つの目標として、拠点の形成と連携、豊かな住み続けられるまち、道路交通ネットワークの充実、産業地域経済の発展、誰もが安心して過ごせるまち、としています。

20 ページは、まちづくりの体系です。

21 ページが将来都市構造です。総合計画に掲げています、拠点の形成と軸の形成として、構造を掲げています。

22 ページをご覧ください。まちづくりの方針です。ここから個別の方針になります。

1 土地利用の方針の基本的な考え方です。魅力ある資源や自然、歴史社会の特性を活かして、都市拠点と地域拠点を形成し、それを軸としたネットワークとともに高速道路のアクセシビリティを生かした観光交流推進、市内回遊性を高める土地利用を図っていきます。

都市的な土地利用と自然的土地利用として区分します。

都市的土地利用として、宅地化や土地をどのように利用していくかの観点で、商業地、業務地、工業地としています。都市計画区域内では、用途地域などを検討します。全体として、商業の集積、行政サービスの利便性、企業立地、住宅地は良好な環境の形成を図るものです。

23 ページは、自然的土地利用の方針です。農業地、森林地、海岸地としています。農業地は、良質な農産物を活用した農業の振興と集落、環境の維持・向上を図ること。森林は、山などの資源環境を体験の場として活用すること。海岸は、山陰海岸ユネスコジオパークや、久美浜湾などでの交流を促進など、観光の観点を土地利用にも掲げています。

24 ページをご覧ください。2 都市拠点の形成方針です。人口減少においても、市民生活の利便性確保と持続的な発展、連携・交流の拠点の整備、地域振興機能の維持向上を図るとして、都市拠点と地域拠点に分けて考えます。立地適正化計画の策定にむけ、都市拠点や地域拠点の大まかなエリアを示しています。

都市計画区域内はエリアを、都市計画区域外は大まかな位置を示しています。立地適正化計画が、都市計画区域内を対象としたものでありますので、都市計画区内はエリアを、都市計画区域外は、拠点の位置を定めることとなりますので、このような示し方をしています。

25 ページが都市拠点、26 ページ、27 ページ、28 ページが、地域拠点のエリアと中心点です。

29 ページが軸の形成方針です。道路、公共交通に関するものです。

道路と公共交通により人と物の流動とアクセシビリティ、防災性の向上と、大交流のまちづくり

につなげていくものであります。広域連携軸は高速道路で、大動脈として強固な基盤確立と整備促進を図っていくこと。地域連携軸は国道や主要地方道、府道の整備促進により、拠点と市域外の連続性を図っていくこと。これらの道路と、鉄道をはじめ公共交通を位置付け、ネットワークを図っていきます。

素案では、方針に、高速道路や国道の整備促進のほか、市道も位置付けています。

33 ページが公共交通の方針です。持続可能な公共交通の構築、利便性向上、鉄道、路線バス、公共ライドシェア等の運行の維持、利用啓発、人材確保、新たに MaaS などデジタルも含めて利便性を高め、ネットワークを構築していくこと。

鉄道の利用促進として、都市拠点整備の検討や駅を活かしたまちづくりを進めていくことです。

35 ページが都市基盤の方針です。産業の振興として、企業立地、事業用地の計画的な確保、都市機能の維持、良好な住環境の確保、産業基盤の整備です。産業の振興については、企業立地、拠点の強化、インフラの整備。住環境については、住環境の整備や空き家対策、市営住宅を掲げています。

36 ページからが上下水道、37 ページは河川等の方針です。

安心安全として河川等整備を促進します。

一般廃棄物や生活排水の処理、処理場などについて、都市計画区域内にこのような施設を設置する場合には、都市計画決定を行う必要がありますので、マスタープランに位置付けるかたちで方針に加えています。

38 ページをご覧ください。都市機能の施設の方針です。子供たちの健やかな成長であるとか健康長寿に貢献するような機能配置と施設連携・強化を図っていく都市機能の充実を目指すというところであります。立地適正化計画の基本的な考えとして、都市機能の誘導を掲げています。

市全域、地域拠点、都市拠点において、どういった機能の立地を誘導するのかを表にしたものです。

都市拠点は市全域を対象としたサービスの観点、地域拠点は日常生活を支える機能の観点から、商業、医療、福祉、文化・教育、金融、行政、公共交通などを区分したものを掲げています。

また、医療、福祉、文化、教育についてのそれぞれの方針に加え、公園については、都市基盤で整理されることもありますけども、利用の観点から都市機能として位置付けています。

42 ページをご覧ください。自然景観と地域資源の活用の方針です。

大交流のまちとして、世界ジオパークなどの豊かな自然環境を生かし、保護・保全を図り、活用します。あわせて、カーボンニュートラル実現を掲げています。脱炭素、循環型社会です。景観の形成は観光にも繋がるものと考えます。

44 ページが防災の方針です。国や府と連携して、水害や土砂災害抑制・軽減を図っていきます。あわせて、消防の整備として、防災機能や土砂災害などに対する防災です。

第3章は地域別構想です。

46 ページをご覧ください。現在、京丹後市の新コミュ組織が34、組織されています。

47 ページからは各町の地域構想です。

地域別構成は、地域の概要のほか、拠点の方針、地域の土地利用の方針、取組みで構成しており、6つの地域で整理しています。

地域拠点は、生活サービス機能の維持と充実です。行政の効率化でサービスの利便性を向上します。

都市拠点は、市全域に波及するサービス機能として、既存の大型商業施設や国道のロードサイド型の商業機能の維持・向上を図り、地域拠点である既存の市街地との役割分担を図ります。

都市拠点が峰山町から大宮町にかけて位置しています。

峰山地域は、機械金属製造業等が立地する工業団地や工業的な土地の維持充実に図り、山陰近畿自動車道の峰山インター線の整備、国道バイパス、丹波バイパスなどの事業の促進、峰山総合公園、途中ヶ丘公園の活用促進、竹野川や小西川の河川改修を促進します。

50 ページから大宮地域です。峰山と同様に都市拠点を掲げています。地域拠点では市街地、生活サービス機能の維持・向上、国道 312 号との商業施設の誘導。土地利用の方針は、農業地や農業振興の土地利用を図っていくところです。道路は、現在進められています峰山道路、高速の早期完成を促進して、312 号の円滑化。都市機能については、内山ブナ林などの活用、小町公園などの活用です。

53 ページから網野地域です。網野駅から海岸までを地域拠点として、住宅地、商業地、生活機能の維持・充実に図ります。令和 2 年度の国勢調査まで人口集中地区がありました。市街地としてのまちなか空間の形成を図ります。網野町には基幹産業であります、織物業など、職住近接、海辺のまちとして、地域生活と活動をささえていくものです。土地利用は、海岸沿いに観光の拠点があり、美しい海岸線等の自然環境を保全した観光振興を図っていきます。道路は、峰山インターから網野までの整備促進、その先の早期ルート決定と事業化、インター線の整備を促進します。都市機能は、網野庁舎跡地の活用として、交流とにぎわいの拠点の形成。河川改修の促進を図り、安心安全を図ります。

56 ページから丹後地域です。丹後半島における観光とネットワークの拠点や、間人漁港であるとか、漁業の生活を提供する拠点として、必要な生活に必要なサービス施設の都市機能の向上を図ります。土地利用は、自然環境を活用した丹後半島観光ネットワーク。道路は、国道 178 号バイパスの整備、道路拡幅、間人大宮線の整備です。都市機能施設としては、宇川地域の交流拠点の整備や、観光を促進します。

59 ページから弥栄地域です。弥栄病院があり住宅と医療の拠点として位置付け、田園集落の景観を保全した上で地域拠点を目指します。土地利用は、農業振興を基本にバイパスなどの整備促進、病院の医療機能の維持確保、食のみやこを活用した観光促進です。

62 ページから久美浜地域です。久美浜病院があり、住宅と医療の拠点として位置付け、生活サービスの機能維持向上を図ります。また、歴史あるまち並みも含めた、観光の保全をしていくことを地域の拠点の方針としています。土地利用では、町並み景観の保全や農業振興、高速道路の整備促進、病院の計画的な整備、観光交流の促進、河川改修の促進です。

以上が 6 つの地域の構想になります。

これらの実現に向けた推進方策が 65 ページからになります。まず、都市計画のまちづくりの体系で、都市計画全体として土地利用と都市施設を市街地開発事業、地区計画などがあります。

京丹後市では、全ての項目を都市計画しているものではありません。土地利用では、市街化区域・市街化調整区域の区分はなく、現段階で用途地域も定めておりません。

都市施設では、高速道路からのインター線などの都市計画道路、峰山総合公園やシーサイドパークなどの都市公園、公共下水道、ごみ処理場や火葬場です。市街地開発事業と地区計画等ありません。

マスタープランの方針を基に、用途地域の指定、都市計画施設の決定・変更を行うことや、立地適正化計画を策定し、都市機能の誘導を図っていく考えです。

66 ページは、協働のまちづくりの推進です。まちづくりの情報の共有化、新たな地域コミュニティづくりの促進、公民連携の推進として、市内外の民間事業者等と協力し、地域課題の改善に取り組んでいきます。

最後に進行管理として、このマスタープランが 10 年間の計画で、5 年を区切りに見直しを含め進めていきたいと考えています。

説明は以上でございます。

質疑

(委員)

拠点を設けるという考え方は、京丹後市のような分散型の都市においては非常に重要なことと思っております。まず拠点が 1 つあり、地域拠点が合併前の支所があるところを中心にとすることだが、この 6 つがすべて同じレベルなのかなってところが気になりました。

地域拠点という形で、同じレベルにすると必要な施設も同じになってしまう。本当に 6 つの地域拠点を同じレベルで都市機能を集めていくのかが今後の人口減少の中で良いかという点です。

鉄道駅との関係性についても、書いていただいた方が良いのかなと思いました。今回の都市マスは人口減少の中で持続可能な都市ということが 1 つ大きな目標になるものと思えます。そうすると、コンパクトプラスネットワークとしても駅を中心にネットワーク化をしていくことが必要になるかと思えます。やはり鉄道駅に、今後、都市機能をどのように集めていくのかということです。

また拠点と拠点をどう結んでいくかは、非常に重要な視点になると思えます。支所プラス駅を中心に拠点を設定したとあれば良いと思えます。各地域別構想にも、駅が存在があまり書かれていないように思いました。可能であれば、公共交通のことについて、その地域の中でどこを中心に公共交通ネットワークを作っていくのか、また、全体として、各拠点をどう結んでいくのかを、都市マスの中で書いていただくと良いと思いました。

その次に、防災について、一般的なことが書かれていて、どこに災害上の課題があるのかわからないので、例えば、図などで、ここに土砂災害のリスクが、ここに水害リスクがあるというようなことがわかるようにしていただくと良いと思いました。

先ほどのデータでは、工業出荷額と観光の収入が上昇しています。一方で、工業に従事する方の人口が減っています。従事者が減少して出荷額が増加していることは良い傾向だと思います。観光をもっと充実させていけば良いというアンケート結果もあったと思います。今回の工業出荷額が上昇しているような産業が集積しているようなところであれば、そこを更に活性化させていくとか、観光についても、全体として観光推進はわかりますが、具体的に、地域別構想の中で観光の方針まで書いていただくと、より工業や観光の経済的な効果があるのではないかと思います。

(事務局)

京丹後市の中での駅があるところが、南から大宮町、峰山町、網野町、久美浜町です。

大宮町の地域拠点のエリアについては、駅と近いところに市民局がございまして、一定駅も中心とした観点を含んでいると考えています。

峰山は、駅から市街地がはじまっているので、駅も含めたものとして考えています。網野も駅から海岸までが市街地と考えています。駅も含めた一定のところ、地域拠点の中心的なエリアと考えています。

久美浜は、市民局と駅が近接していますので、駅も含めて中心となっています。

拠点の考え方については、人口減少の中で6つの拠点に、全ての施設を整備するということが可能かということをございますけれども、都市拠点については高次な都市施設ということで、市全域の市民の方を対象とした都市施設を集積していく考え方です。

同じ施設を6つの地域に整備をしていくものではなく、京丹後市は広いので、生活に必要な商業、福祉、病院でいえば診療所などの位置については、6町に生活に必要な部分として立地を促進していく考え方です。

詳細な誘導施設につきましては、今後、立地適正化計画により位置付けていきたいと考えています。

公共交通の関係で、国・府道を中心とした道路整備は記載があるものの公共交通の記載が薄いのではないかとということにつきまして、公共交通が軸の形成に大きく携わりますので、表記する内容を検討したいと考えています。工業、観光のご指摘をいただきましたので、記載ができるものか検討を考えたいと思います。

(会長)

いただいた意見には、表現についてもありました、できればわかりやすく示していただいて、地域ごとにメリハリのあるものを表現する工夫をお願いしたいと思います。

(委員)

病院はもちろん大事なのはわかりますが、高校や大学まですべての地域拠点に丸がついているのが気になりました。あとはお任せいたします。

学校教育施設の問題は、これからも人口が減少していく中で動きがあらうかと思っておりますので、その辺りに関しても内容や表現を可能な範囲で検討をお願いしたいと思います。

(委員)

公共交通の関係で、広域連携軸という中で、地域内の高速道路の整備などがありますが、あえて外されているのかもしれませんが、但馬空港との関係です。

但馬空港との関係で、兵庫県が中心になって東京との定期便の実現を色々と模索されたり、運動されたりしていますが、京丹後市も隣接市として、東京との定期便の実現についてどのようなアプローチをされているのか、また、それに伴う空港施設の滑走路の拡張とか、そういう辺りを国だとか兵庫県とかの連携をどのような形でされているのか、これあえて外されているのだったら申し上げませんけれども。

それから森林地という項目の中で、市内の山林地域はかなり荒れているというふうに感じています。京都府が創設している森林税を活用した環境、保全ということができないのかということも、プランの中に入れてはどうかという提案でございます。

(事務局)

森林保全の件につきましては、必要なことだと思っておりますので表現について検討して参りたいと思います。

空港関係は、総合計画で大動脈としての交流として、京丹後から鳥取、さらには大阪のことも掲げておりますので、全体の構想等になりますけれども、表記の仕方も検討して参りたいと思います。

但馬空港につきましては、近隣市町等も含めまして京丹後市としても、一緒になって滑走路の拡張など促進に向け努力しているというところです。総合計画との関わりも踏まえて、検討して参りたいと思います。

(会長)

空港の件、総合計画に内容がありますか。

特にはその空港に関して、表記がないですか。

(事務局)

コウノトリ但馬空港としての表現はございませんが、総合計画では大動脈と直結する大交流のまちづくりを位置付けておりますので、近隣の空港等と山陰近畿自動車道も含めたものとしてしているところです。

(会長)

総合計画を超えるような表記になるとおかしくなるかもしれません。そのあたりを考えながら検討をお願いします。

(委員)

全体の方針はすごく立派だと思います。全体に気を使いすぎた計画のような気がしてのっ

べらした感じがします。

もうちょっと特徴を出して、本当に6町が1つになれるような、何か方針が欲しいという印象です。何を打ち出すかと言われると、具体のことも浮かびませんが、全体としてそんな気がしました。

(会長)

非常に、大事な視点だと思います。委員から言っていただきました、同じレベルにするのかということを書いていただいたと思います。

説明の印象として、全部を同じような方針に感じられるので、メリハリをつけることも必要かもしれません。ハレーションも起こるのかもしれませんが、全体の中でマスタープランがまとまっていることが大事だと思います。それぞれの役割、特徴を明確にするような表現方法として、現段階で事務に何か考えがありますか。

(事務局)

総合計画ではこれまでから拠点と軸という形で検討しています。今回マスタープランでは、新たにその位置付けとして都市拠点と6つの地域拠点を計画にしていますので、ご意見を受け、もう少し強調などの検討を考えて参りたいと思います。

6つの地域は、地域産業や自然豊かな環境を含め、引き続き日常生活をささえるエリアとして、また、高次な都市施設は都市拠点に位置付け、集積を図る考えでございます。もう少し強調することを検討して参りたいと思います。

(会長)

観光の充実も各拠点によって違うかもしれませんし、林業、農業も違うかもしれません。現状の分析の中でさらに伸ばしていくようなところが拠点ごとに見えるような表現が可能であれば検討をお願いします。

(委員)

都市整備の基本的な方針として、一般廃棄物処理場、ごみ焼却場などが、どの位置にあるか読みとれないです。

インフラは、寿命がくると更新が必要となるので、場所がわからないと都市計画と言われてもどのようにしていくのか、受け止めようがない気がします。

例えば、ごみ焼き場が耐用年数をむかえるときに、地図による表示がないと、イメージがわきにくい気がします。

(会長)

今回は、図に示されてなかったのでしょうか。

(事務局)

今ご意見をいただいたとおり、位置も重要と考えるので図について検討して参りたいと思います。

(会長)

第4章になるのか、又は、都市施設の方針に書いてあるとわかりやすいかもしれません。工夫をお願いします。

(事務局)

都市基盤で整理をしていきたいと考えます。

(会長)

公開する資料でもありますので、よろしくをお願いします。

(委員)

道路の整備については位置付けられていますが、鉄道関係や一般店舗についてどうか。存続や、誘致といっても、民間企業は採算が合わないと進出しないと思います。鉄道はもう第2段階に入っていて、上下分離方式もいつまで持つのか。10年先はどうなるか。もし、手を引かれると、どうするか何か計画などがあるのでしょうか。

(会長)

回答は難しいかもしれませんが、答えられる範囲でなにかありますか。

(事務局)

公共交通の鉄道に関しましても、今後も持続できるような形で京都府とも協力しながら進めて参りたいと思っています。

主要幹線道路は、6町が繋がりがつあるということでございますので、鉄道のない地域では道路整備ということも1つの大きな課題でございます。

道路整備にあわせて、公共交通の検討も現在進めており、促進して参りたいと考えてございます。

民間の企業の誘致は、民間の投資ということもございますので、マスタープランに描くのではなくて、他の計画により検討するものと考えています。

マスタープランの関係では、各地域での道路などの公共インフラ整備等により、民間企業が集積していただけるようなまちづくりを進めていくものと考えています。

(会長)。

鉄道に関しての表記がありますが、都市構造のところで、道路のことは内容が多く見えます。鉄道に関していくつか意見が出ています。都市構造で鉄道をどのように活かしていくのか、重要な視点だと思いますので、公共交通についての内容も検討いただきたい。

(事務局)

公共交通の内容について検討して参りたいと思います。

(会長)

今日の会議は、残り 30 分程度となりました。是非とも皆様のご意見をお聞きしたいと思えます。マイクを回す形にはなりますが、感想を含めご意見をお願いします。その前に、ご意見あれば伺います。

(委員)

将来の人口のビジョンに関して、グラフを見る限りでは、人口が減少しますが、2050 年ごろから増加するようになっていきます。今京丹後市の人口減少は食い止めたりすることができなくて、どんどん減少していて結構深刻な課題となっていると思います。

どういうふうな計画で、人口減少を食い止めることができるのか、このグラフにしているのか、個人的にはすごく気になりました。

また、京丹後市の新コミュ組織に関して、結構地域団体の人や地域住民の人たちがこのような課題に関われることで、すごく良い取り組みを考えられたと思います。

(会長)

京丹後市なりの人口ビジョンの根拠は難しいですね。

新コミュ組織に関して内容をお聞きしたいということです。

(事務局)

人口ビジョンにつきましては、あらゆる手だてを講じて、合計特殊出生率を高めることや新たに市外から京丹後市に住まわれる方を増やしていくことで、人口ビジョンの目標人口をかかげています。

新コミュの取り組みです。現在、自治会として 225 の地区がございます。住民の方々の基本単位として、何々区のほか旧小学校単位のところもあります。全体として人口が減少しているところもあり、地域づくりをどのように発展して活性化していくのかというところで新たなコミュニティ組織の取組があります。

各地域での活動も活発にして、支えていきながら、さらに、町単位で地域拠点等があつて、さらに 6 つの町の全体を見据えたものが都市拠点という形で、京丹後市全体を持続可能なまちにしていきたいというところで新たなコミュニティ組織というところも掲載しているところでは。

市全域と同じで、各地域も人口減少だとか高齢化っていうのも深刻になっているという状況のなかで、その地域のまちづくりというのが進まないという現状もございますので、公民館単位や学区単位、その周辺の地域を 1 つの町としてとらえていくというようなことで、新たに新コミュ組織というものを立ち上げていただいて、地域で活性化していただくという

うものです。

今回マスタープランについて、学校区単位など一定のエリアに対しての考え方を進めていくのが良いのではないかと考え、記載をしているものです。

(会長)

新コミュ組織については、拠点エリアを示しているところとこのコミュニティ組織の活動範囲が重なっているものかもしれません。

(委員)

これまでは都市拠点までのアクセスをどうするかという話もあったと思います。このマスタープランでは、6町それぞれに特性を持たせて、盛り上げていこうという計画のように感じられ、今までと少し違う感じとなり素晴らしいことだと思いました。

都市機能の方針の地域拠点、都市拠点いずれも〇があると、あまり特性が感じ取れない気がします。都市拠点も大事ですけど、これから高齢化も進むことを考えると、医療について弥栄、久美浜に病院がありますので、都市拠点と同じぐらい病院も大事な場所だと思います。単なる6町の1つの特色の枠組みではなく、拠点以外に、病院などにもいかにアクセスができるかを、もう少しとらえたほうが良いのではないかとと思いました。

駅から近いことや、駅からのアクセスももちろん大事ですけど、実際、弥栄病院、久美浜病院、都市拠点も含め、駅から直接アクセスできるところがすごく限られており、鉄道駅からのアクセスよりも、都市拠点、各地域拠点が線で繋がるような交通の考え方を具体的に示せると良いのかなと思いました。

拠点1つ1つをつなげて欲しいと思います、京丹後市全体が繋がっていることがわかるような図があれば良いと思います。

(委員)

先ほど委員からも意見がありました、地域別構想として資料を作られています。当然、地域別のことは大事ですけど、逆に市としての一体感が薄れているのではないかと感じるころがあります。さきほど委員が言われました、それぞれおなじものが全てできるわけでもなく、将来のことを考えていくときに、優先順位などに配慮して市としての視点で一体感を持ってやっていかないといけない、そういう時期ではないかと感じています。

緑風高校の丹後地域活性化プレゼンテーションを2年連続みさせていただきました。想像よりも相当レベルが高く、彼らの持っている課題として人口減少に興味を持たれ課題解決に向けてのプレゼンテーションが多くありました。若い人たちは、最初から市全体としてとらえて考えているので、さまざまな場で大人の会議で議論するときよりも、全体をとおして考えていると思いました。今後のこのまちを実際に生活して発展させていける年代の人たちである高校生のアンケート結果をもっともっと重要視し、都市拠点にはどのような機能がいるのか、地域拠点にはどのような機能がいるのかを、もっと若い世代の意見を前面に出していけば良いと感じています。

鉄道駅の話も委員の話と思うところが同じであり、地域拠点間も、駅のないところを含めて結んでいかないといけないと思います。

この頃すごく感じているのは、移動販売に来ていただくことは必要ですけど、人は自由に買い物に行きたいし、人がたくさん集まっているところに行きたい。そのようなことができるようにするためには、今までなかったような新しいモビリティの技術など、田舎であればこそ新しいものを取り入れて、地域と拠点を結びつけていくようなことが優先順位としては高いのではないかと思います。

(委員)

全体的な感想としては、委員からあったご意見に同感するところがたくさんありました。会長からもメリハリについてふれられました。メリハリについて1つ思うのが、鉄道の話がありました。実際に鉄道を利用している方が、どこに行かれているか、どう利用しているかで重要度が全然違って来るのかなと感じました。

委員がおっしゃっていたことと同じで、車を自由に乗っていた方が、免許返納したとき、駅に行くのにどのようにして行くことができるのかを、考えなければならない状態の方がどの程度占めているかについては、都会の駅のあり方と田舎の駅のあり方では、大分差があるのではないかと感じています。

もう1点、空き家がすごく問題になっていて、他の自治体でも同じような目標を掲げていますが、処理ができてなくて放置や持ち主がわからないなど、最終的には権利放棄をされて、特定空家等になっていることが問題になっていくことが多いと感じています。コミュニティの中でどのような方向性を持って処理していくのかの観点も、計画に含めるべきではないかと思いました。

(委員)

福祉ってということで、健康長寿の促進が位置づけられていますが、社協としては、フードパントリーの事業を進めています。コロナが発生してから物資の必要な方、働けなくなった方が増えてきています。今年の年末はお配りしていないんです。常に物資が必要なんですという方がご相談にいられています。皆さんは大変苦しい思いをしていらっしゃると思います。

都市計画マスタープランの地域経済について、福祉にとっても地域経済の発展に向けたまちづくりが大切なことだと思っております。

(委員)

子供子育て支援のところで気になりました、こども園などの内容はありますが、その先の小中高にふれられていません。

小中一貫校の会議のなかで、保育園も主体性を大切にしている、外で遊びたい子は外で遊ぶし室内で遊びたい子は室内で遊ぶという自分がやりたいことができる、また、給食も自分で食べたいタイミングで食べる、少し不思議な保育のスタイルとして、子供が自分のタイミングで全部できるのはすごく良いなと感じました。

小中学校も英語教育に力が入っているということで、他の自治体からの視察も多くあるとのこと。力が入っていることについても内容にあげていると良いと思います。

(委員)

公共交通の方針のところ、スマホアプリを通じて検索予約・決済まで一括してできるサービスがあります。私の祖母はスマホなどでの予約がすごく苦手で、私が手伝っています。京丹後市には一人暮らしの高齢者の方もたくさんいらっしゃるの、地域の方に助けていただけるとは思いますが、頼りにくい人もいて利用される方が限られているかもしれません。そのような人への対応も必要だと思います。

(委員)

皆さんのご意見を聞かせていただき感じたのは、各地域に配慮し過ぎているのではないかとということでした。なぜその疑問が出るかを考えてみると、地域特色に応じた機能を高める6つの地域拠点の形成を進めるというのが理由にあるかと思います。その先にありますこの地域別構想で、地域の特色が書いてありますが、もう少しすいかもしれないと感じました。具体的に記載していくことで、より方向性が具体的になるのではないかとということが、先ほどの質疑の答えになるのではないかと感じました。

(委員)

この計画は将来の京丹後市を見据えた計画の位置付けにとらえており、10年後、20年後のまちづくりのあり方の1つの基盤になると思っています。

高校生アンケートなどを見ますと、共通しているのが公共交通などに不便さを感じているということです。

課題としては、アンケート調査でも出ていますが、具体的なところの把握がもう少し必要ではないかと思いました。参考資料や現状のデータがあると思いますけれど、例えば、公共交通の一番の課題については、鉄道なのか、路線バスの丹海バスのエリアでどこにどうやって使われているのか、高校生が何に課題を感じているのかを把握をしておくことが大切だと思います。表し方として、示されている路線の図では今一つイメージがしにくいと思います。

どの路線が一番ご利用されているのか、例えば、路線バスの不便さを感じているところなど、資料の提示のあり方として、データを把握して強弱などが示すことができれば良いのではないかと思いました。感想を含めた意見です。

(委員)

皆様の意見もあったように、軸の形成で道路整備が非常に大きく位置づけされています。丹後土木事務所の主要事業として取り組んでいることが、非常に大きくクローズアップされていると思っています。

代表的なものでは、山陰近畿自動車道の整備、国道、府道であり、また都市基盤の整備の一つとして、竹野川、福田川、川上谷川など主要な河川の整備が位置づけられており、土木

事務所の、今、主要事業として推進しているものがマスタープランの基盤となるところであります。我々が実施している事業が重要であることを改めて認識しました。

また、整備の促進を引き続き取り組まれることを改めて認識しているところです。

色々なアンケートがマスタープランにどのように反映されているのか、より分かりやすくすると良いと思います。

あと細かいところになりますが、丸と2重丸で表している表については、凡例をつけると、より分かりやすくなると思います。

(委員)

今後の京丹後市全体のことを考えると、若い方の意見をきいて反映することが非常に重要と率直に感じています。

警察としては、1点目として道路環境の整備です。道路環境について、管理者と協議をしながら、道路交通の円滑化を図っていくことを最大の目的として、対応していきたいと思っています。

災害の対応について、広範囲に225の集落がありますので、去年の能登半島での地震を考えますと、道路が寸断され孤立集落が多く出ることも考えられるのではないかと思いますので、災害時の道路ネットワークについても位置づけがあると良いと思います。

この点も含め、今後も市と連携しながら対応をしていきたいと考えています。

(委員)

空き家の問題です。空き家で環境が悪くなってきています。アライグマなどが住みつくなど地域問題となり、安全対策が進まないことがあります。

空き家を何とか人が住めるようにできれば良いと思います。廃屋化したものも増えてきており、その点にも触れられるとよいと思います。

森林経営管理制度が始まりました、森林環境税が昨年からは徴収されて、森林を積極的に整備することとして、交付されています。環境譲与税を積極的に活用し地域の山の保存についても触れられると良いと思います。

市道の整備推進について、地元として、毎年市道の補修・修繕の要望をしています。財源がなくなかなか進まないとのこと。高校生アンケートにも通学路が、例えば水たまりができるなどで非常に通学しにくい状況がでています。市道の整備が実現に近づくような感じになると良いと思います。

通学路の改善も市内に結構ありますので、十分考慮して安全に通学できるような整備をお願いをしたいと思います。

(会長)

時間が過ぎてしまいました、本日はこの程度で終わらせていただきたいと思います。時間が少なく、しっかりと目を通していない部分もあろうかと思っておりますので、意見がありましたら事務局に伝えていただき、検討を進めていきたいと思っております。

議長として事務局と調整し、次回の会議までにまとめていきたいと思ひます。

(事務局)

尾上会長、ご審議を進めていただきありがとうございます。

個別のご意見は、内容を検討し会長とご相談させていただきたいと思ひます。

ご意見については、次回の審議会の関係で1月7日をめどにいただきますようお願いいたします。

(会長)

ご意見等あれば、事務局にお伝えいただいて、皆さんの声を吸い上げていきたいと思ひます。

それでは、次の会議までに、さらなるブラッシュアップを進めていきたいと思ひます。

本日の審議会はこのような内容で収めていきたいと思ひます。

短い時間で様々ご意見をいただきましてありがとうございます。

(事務局)

次回は年明けの19日の開催を予定しておりますので、よろしくお願ひいたします。

閉会に際しまして中川建設部長からご挨拶を申し上げます。

(閉会挨拶)

本日はありがとうございます。

先ほど、時間の都合上、ご意見等がすべてお聞きできてなかった部分もございますので、また後日でも、十分聞かせていただきたいと思ひます。ご意見をよろしくお願ひいたします。

皆様から意見をいただいたことについて、各分野で色々ご意見をいただきました。素案について、軸の形成に関する鉄道以外の公共交通の記載が少し薄いのではないかとのご意見だったと思ひます。

マスタープランは土地利用等の方針でございますので、基本的に公共交通の計画で具体化していくものと考えています。その前提としての方針が少し薄かったのではないかとお願ひしていますので、そのあたりは検討していきたいと思ひます。

もう1点、拠点の特色について、各地域を位置付けたことを評価いただいたのではないかとお願ひしていますが、市全体としての方針的な部分が薄くなっているのではないかとのご意見をいただいたとお願ひしています。そのあたりも再度検討して、会長とも相談をしながら進めて参りたいと思ひています。

(事務局)

これをもちまして第18回の京丹後市都市計画審議会を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございます。